

「おもてなし日本一のマラソン」を目指して

西 浩 二*

こんにちは。お招きいただきありがとうございます。私は指宿観光協会の副会長をしています西と申します。年は62才になります。菜の花マラソンには30年前の第7回ぐらいからタッチしていきまして、旗立てから始めて、5年ほど前から本部の救護を担当しています。菜の花マラソンは、「おもてなし日本一のマラソン」ということで、今日は四つの項目に分けてお話をさせていただきます。

今年37回目の大会は珍しく大変いい天気でした。皆様方には8ページの資料をお渡ししていますが、今日はこのお話していきます。

2ページ目が私どもの組織団体でございます。大会実行委員長は観光協会の会長が務めており実質上動いている組織です。その下に総務関係と競技関係です。市町村合併する前の1市2町、つまり指宿市、山川町、開聞町、それぞれの婦人会・自治公民会も含めて運営協力をいただいています。

3ページ目の招待選手は韓国からお呼びしておりますが交通費だけでお願いしております。瀬古選手はランナーとして走るのではなくていろいろなご助言や、ランナーに力を頂くパフォーマンスをしてもらっております。

4ページ目には第1回目からの参加者数を各県ごとに挙げています。

5ページ目は、「救護体制」ということで、山川高校に救護センターを設けており、収容車両や大型バス車両等が書いてあります。

6ページ目は32回大会の模様です。皆さま方には鹿屋体育大学、鹿屋の自衛隊の方々にもたくさん参加してもらっていますけれども、この32回大会は大変冷たい雨で、棄権者が続出した大会でした。終わった後調査をして回ったところで、病院にランナー60名の方が収容され、ビニールハウスには100名以上走れないランナーがいたとか、それをすべて調査した人数を日付ごとに書いています。7ページは大変ご迷惑をかけた地域の皆様方に新聞折り込みのチラシを入れた資料で

す。感謝の気持ちを込めて、また反省も含めて皆様方に配布した資料になります。

それから8ページは古い資料ですが、自治体が抱える補助の見直しや課題、それから東京マラソンは参加料が12,000円だけれども、1人当たり5万3000円かかっているという資料です。京都マラソンについては、4万7000円かかっているなどの資料になります。

沿革を話せば長くなりますが、とにかく私どものスタートは、1月の指宿温泉は正月が終わったあとお客様は少ないので、1月に何とかお客さまを呼びたいということで、たまたまホノルルマラソンを見た当時の東京の旅行会社の社員の方が来られて、ホノルルマラソン行ったことあるかと、「今ホノルルのマラソンはアスリートが競技をし、記録を出すところではなくて、スポーツを愛する家族の方がみな来てお祭り騒ぎをしている」と、これからの日本もそういう地域づくりが必要だという提案を頂いたそうです。お金も見通しも何も立たないので、どういことができるのかということで取りあえずハワイに行ってみて、どのようにやればいいのか？九州の他の地域にもそういったものがなかった時代ですから、とにかく、町長さん、行政担当課を廻り頭を下げて、おもてなし日本一を目指そうと、これが37年続いて、まだ目指している最中です。

この写真の右の方は藤田観光の名前が入っていますが、山田敬蔵先生です。第1回目から携わっていただいています。この方が金栗四三さん、来年の『西郷どん』が終わったあとの大河ドラマは『いだてん』という、宮藤官九郎さんが脚本をされる金栗さんのお話です。ちょうど金栗先生が90歳の誕生日に山田敬蔵先生がお話をされて金栗杯をつくっていただきました。第1回目から優勝者トロフィーとして出すことができました。この写真がそうです。当時は「指宿温泉マラソン」でスタート、第3回目から「いぶすき菜の花マラソン」に変えました。こちらの写真は女性のトロフィーです。この写真は宗兄弟です。宗兄弟は以前

* いぶすき菜の花マラソン実行委員会

から指宿には冬場にキャンプに来られて走っていらっ
しゃった。これは10キロの部のマラソンに走っていた
だいたときのものです。

「おもてなし日本一」を挙げた理由というのは、他
にまだそういうマラソンがなかったからという話で
す。とにかく「おもてなし日本一のマラソン」はどう
いうことをすればいいか？というのを観光の面から
考えたのが指宿のマラソンだったと言えらると思いま
す。おもてなしをするためにはどうしたらいいか？と
にかく来た方に市民で精いっぱいの声援を送ろうと、
それから沿道の方々に感謝の「ありがとう」という声
掛けをしていただこうと。有名選手を呼んだら応援に
は来てくれそうですがお金がかかります。こんな支出
していただければ市民から愛されないマラソンにな
るだろうということで、懸賞金を出さない市民マラ
ソン大会にしよう。だから今も招待選手は宿泊交通費
のみということです。以前、公務員ランナーの川内選
手にも2回連続走ってもらいました。現在、大手の広
告代理店辺りの応援をいただきながら新しい都市型マ
ラソンをつくる場所もありますけれども、自分たち
は手づくりでやろうということを第1回目から継続し
ています。そして、行政区のまたがる方々にどうい
う協力をいただくかと、それは自治体のそれぞれのお
考えもありますし、地域の特色もありますので、道路問
題とかボランティアのお手伝いなど、経費をかけずに
始めたのが菜の花マラソンだったわけです。

その組織づくりが、先ほどあった2ページ目です。
いぶすき菜の花マラソンをつくったことによって、実
はそのあとにいぶすき「菜の花マーチ」いうのができ
ました。そのあと「指宿トライアスロン」ができました。
それから「いぶすきフラフェスティバル」という
のもできました。指宿菜の花マラソンは、非常にア
ップダウンが激しくて走りにくいと不評をいただきな
がら、しかし2万人大会までになった。そういう中で行
政の方々に、地域の方々に協力をもらわないと参加料中
心の運営資金ではとてもできません。実行委員会が出
している飲料やバナナ以外にボランティア活動で飲み
物・食べ物を供給しているところが大変多いです。ち
なみにカツオの腹皮やキンカンなど、本当にご自分の
庭先に植えてあるキンカンをキンカン漬けにして提供
したり、正月作ったお餅を焼いて出してくれたり、そ
んなことをしていただいているのは手づくりのマラソ
ンの良さだと思っています。こちらから特にお願いし

てはいません。すべてご自分たちで自主的に出しても
らっているものですから、経費の掛からないマラソン
大会となっています。

先ほど申しあげました自分たちでつくるといこと
ですが、観光協会の理事メンバーは26人です、その
うちの約10人が旅館・ホテルの方々です。実行委員長
は旗振り役になって、旅館のスタッフができること、市
の職員にお願いする作業など構築してきました。

また、医師会や陸上競技協会にお願いすること、公
民館や婦人会にどう協力をもらうか？これはなかなか
私どもが地域に根差したとはいえないことです。
どういう切り口でお願いをし、組織の中に入ってい
ただくかということなどは数年かかったと思います。市
の職員もボランティアです。土日、その前から、大会
記録・運営・式典全般、芋炊き、漬物づくり、救護体
制など市役所ボランティアの方々に出てきていただい
ています。ホテルスタッフにはコース上に3000本もの
フラッグを物干し竿に旗を針金で縛って杭打ち作業、
寒い12月から立てていきます。それから大変なのは受
付業務や各ホテルから借りてのマイクロバスの送迎。
ホテルでは宿泊料金に応じた料理の統一メニューとい
うのもやりました。ランナーは15軒ぐらいのホテルに
泊まりますが、それを三つのグループに分けて、同じ
料金のところは同じ統一メニューにしようといこと
を決めてもらいました「指宿郷土料理開発研究会」と
いう調理長の会を発足させ統一メニューを作ってもら
いました。これはランナーから宿泊料金が同じなのに
ホテルの料理に差があるといったクレームがあったか
らです。宿泊予約については「予約会」というのもで
きました。空席状況を共有することで予約担当者がお
互いに情報交換しながら調整をして、しっかりと指宿
にお客さまを泊めていくようにする会です。マッサー
ジ組合をお願いをして、ゴールしたランナーが疲れて
動けない人もいるからマッサージをやってくれないか
ということでテントでやっていただくことも始めまし
た。来賓関係の接客はお客様扱いに慣れているホテ
ルスタッフでやっております。

ランナーに提供するさつま芋は8トン。当日朝5時
前から8トンの芋を指宿市職員の部長、課長の皆さん
が、蒸かし窯を20何台ほど並べて薪で焚いていきま
す。スタート前にはコース上に並べておかないと運べ
なくなりますので、それをコース上に置いていく作業
もします。それから大根の漬物は1.5トンを前もって

漬けていただいて、それ食べやすく切りコース上に配ります。水産加工組合は茶ぶし、これはランナー全員に振舞います。JA いぶすきはそら豆のスープとか、南九州市さんにはお茶を出していただくということをしています。当日は1200名のボランティアの方々にお願いをしています。マラソン実行委員会の事務局は2人しかいませんが、彼らがすべてこういったことを1年かけて手配をしています。コース上では地元の方々が自ら用意した豚汁、バナナやキンカン漬け、ふかし芋、餅を焼いて提供してもらっています。カツオの腹皮焼は大変好評です。子どもたちがこのように沿道で一生懸命応援をしサービスしてくれます。これは建設会社の方が作ってくれた自前の足湯です。ゴールではなくてコース上にあって、入りながら走ることが楽しめます。このようにパフォーマンスをしながら走る方もいて、見ていて楽しいイベントです。

4 ページをご覧ください。第1回目が306名と書いていますが、そのうちフルマラソンは150名です。最高で2万1000名まで行きましたが、今は1万3000名です。やはり鹿児島マラソンが始まってから大変厳しい状況が続いています。昨年、初めて500万円の赤字を出しました。今までにはなかったことです。私どもは収益の中から基金を積み立てており、以前は1000万円ほどありましたが、昨年はそれを500万円を取り崩してしまいました。その前には200万円を東北震災に義援金として寄付しました。この大会に東北や全国から来てもらうということで御礼の支援寄付をしました。今年は運営面で赤字を出さないために参加料を1000円上げました。それは都市型マラソンに非常に圧迫されているのもありますけれど、今回大会は連休でなかったということもあり参加者が減るだろうと予測されたからです。この表はマラソンの収支ですが、真ん中に指宿市の負担があります。10年前の平成20年は720万で今は690万円に下がっています。初回も多分700万円ぐらいだったと思います。全く増えていません。参加者だけでやっている大会です。そして収支はプラスです。これは先ほど言ったように皆さん方が協力していただいているからです。あとは協賛金がありますけれどもほとんど参加料だけでやっている大会です。非常に、珍しい会だと思います。この表はいぶすき菜の花マラソンの経費で約9000万円です。ちなみにほかのマラソンで、例えば京都マラソンは第1回目で赤字を4億円ぐらい出しています。いろいろな見方が

あろうかと思いますが、マラソンは都市型マラソンが出てきたおかげで人気が出てきたというところはありませんけれども、これからの地方マラソンは大変厳しい状況になろうかと思っています。都市型はお金をかけることもできますが地方は厳しい。

救護の話をしていただきます。実は私どもは32回大会の教訓ということで、1万8573名が走って、そのうちゴールした人は約1万4000名、つまり4000名がゴールできなかったということです。リタイア者は資料の中のコース上にある各公民館、日曜ですから閉まっていたのですが、それを地元の方に公民館を開けてもらいました。冷たい雨も降っていたのでコース上にある病院のロビーに駆け込む状況でした。低体温で震えが止まらないという方がたくさんいらっしゃいました。救護テントは中間点22kmにテントを二つ張って、医師チームがいました。コース上にはバスを配置してリタイアした人を回収するという事をしていました。実は後半何百名の方々が動けない、帰りたいという話があってもこの公民館で2、3時間バスを待たせる事になりました。人の命に係わる大きな反省点です。中間点のテントにも救護チームがいるのですが、どんどん送られてくる電話に対応できない、バスがどこを走っているのかも分からないという状況で大変なことになりました。

2万人大会ともなると心肺停止が毎年出るといっても過言ではありません。ただ本当に幸いですけれども、1人も死亡事故は起きていない。2年前は山口県の方で、中学校の剣道の指導もしている先生でしたがコース途中で心肺停止を起こして、ドクターヘリで鹿児島市まで搬送されました。途中、病院もヘリも含めて心臓が4回止まったそうです。その間 AED を付けたままですから、ずっと作動していました。病院で緊急手術をなさるわけですが、本人は元気になって退院されました。病院から知らされた先生は元々心臓に欠陥を持っていたことを知らされて本人は知らずにこの菜の花マラソンも何回も走っているのです。このように心臓病に疾患を持っている人が知らずに走っているという事実を常に念頭に置かなければなりません。1万分の1の確率で必ず心肺停止は発生する覚悟をした対策を考えておくこと。ゴールしてから心臓が止まる方もいました。これも AED（除細動器）で対応して救急搬送して元氣になられました。

32回大会ではリタイアした方々をわれわれが救出で

きないということがあったものですから、すぐ東京マラソンや他の大会に行って学んできました。とにかく早く低体温の方を救出するためにどうすればいいかということを考えたのが、円周コースの真ん中に救急医療本部を設ければ、どの場所にも短時間で行けるのではないかという場所を探したのが山川高校でした。今まではコース線上に線としてバスを置いていましたが、それを止めてこの山川高校敷地を一部使い、すべての回収車両や、救護スタッフを全部置きました。そうしたらご覧のように後半20kmのどの地点にも裏道を通って2～3km、約10分ぐらいでそれぞれの救急の場所まで行けるという形がとれるようになりました。山川高校の校舎は使わずに特設テントを設け指令もここから出すようにしました。大隅鹿屋病院のスタッフの方で、ずっとわれわれに協力してもらっています。この方々がパソコンを使って、今どういう状況で何人運ばれたとか、あるいはけがの発生情報をスマホで常時スタッフに送るようにし、関係者に情報を共有できるシステムにしています。もし何かあって大きな交通事故、人身事故が発生した場合には、直ちにそのまま「救護対策本部」として機能させ救急車や消防車も集めて待機するというにしました。これは大型バス車です。ここに今25名のAED班、自転車部隊がいますが、彼らもGPSを備えていますのでその位置が全部分かります。それから資料の中にもありますが、各旅館のバスが書いてあります。それも全部GPS発信器を積み込んでありますのでどこにどのバスが走っているか全部分かるようになります。こちらはランナーの番号を検索すると、どこの誰々と参加者の名前が出ますのですぐ対応できます。山口県の方もそうでしたけれども、マラソン中に倒れたことをすぐに家族に電話をかけて、あまり重くは言いませんけれども、どこの病院にドクターヘリで運びましたと話をしました。家族でないと会わせてもらえませんし緊急手術も出来ませんので、命に係わる迅速な対応をするためにも救護センターの役割は重要です。電話は受けるのは2本だけで、あとは発信専用。交信が混雑するといっぱいになりますので、指令を出せない状況を創らないためです。これは足湯です。実はお医者さんもランナーも助かるのですが、足湯専用の給湯設備ではありません。非常に便利です。瞬間で60度、70度が沸いて出ますので、ペットボトルに入れて暖を取れますし、暖かいタオルで体を拭くこともできます。

電気とガスがあればどこでも足湯が作れるし暖も取れるということから非常に重宝がられています。ぜひお勧めします。収容車の11台全部をワゴンのレンタカーにしました。レンタカー8名乗りにすると6名を救出できますので、そういった方々をまずは山川高校に救急搬送して、そこで大型バスにませ換えゴールの本部に戻すということです。

加えて重要な点は、この救急体制の組織作りを医療機関の方々に褒めてもらいました。といいますのは、過去2回、高速船が佐多沖で鯨と衝突をした海難事故がありました。乗客が投げ飛ばされるなどして大変なけがをされたり重篤な方もいらっしゃいましたが、そのとき指宿市は山川港のふ頭にテントを張り救護対策本部を設置、運ばれた患者さんをトリアージして病院へ救急搬送する体制が取れました。これはまさにマラソンの救護体制を通して普段に防災の意識付けと訓練が実を結んだ結果だと云えると思います。地域にあって市民から喜ばれるような体制づくり、消防署にも警察にも大変喜んでもらっていますので、そういう意味で単なるイベント救護ではなく、防災の組織づくりも生かしていただければ決して観光だけではない防災のためのイベントだということもアピールになるのではないかと思います。

「おもてなし日本一のマラソン」を目指して



いぶすき菜の花マラソン実行委員会

第37回 いぶすき菜の花マラソン大会



ランナーに感動と喜びを！！



いぶすき菜の花マラソン

「おもてなし日本一のマラソン」を目指して

1. 「いぶすき菜の花マラソン」の沿革
2. 「おもてなし日本一」を掲げた理由と取組み
3. イベントがもたらした効果と市民協力
4. 「救護センター」の新設と危機管理体制

1. 「いぶすき菜の花マラソン」の沿革

昭和55年頃（1980）に
ホノルルマラソンを催した旅行会社社員からの提案。

1. 「今やマラソンはアスリートの為の競技としては無く
スポーツを愛する人が集まる「お祭り」
となりつつある。
2. ランナーが家族やグループで健康や観光を楽しむ
ツールとして、地方に足を運ぶ時代がくる。
3. それが「指宿」という観光温泉地であれば情報発信
にも 繋がる。

「その話をホテル旅館や観光協会が聞き、勉強会始まる」

無いことからの発想・・・

＜課題＞

1. まず、マラソンについて誰も、何も知らない。
2. 予算の見通しが立たない。
3. 1市2町にまたがる行政区に協力がもらえるのか？
4. 誰がやるのか？・・・

＜解決策は・・・＞

1. とりあえず勉強に行こう → ハワイホノルル視察へ。
2. 金が無いなら、とにかく手作りで作ってみよう。
3. やったことが無いので、頭を下げて、人様の手を借りよう。
4. 指宿市観光協会が主体となり実行委員会を創る。
サービスには多少の経験と自信があるので
「おもてなし日本一のマラソン」をスローガンに掲げる。



優勝者に「金栗杯」を！

ボストンマラソン優勝者の
「山田敬蔵」氏にお声がけをして、

金栗四三先生 90歳の誕生日を記念した「金栗杯」を賜る。

（金栗先生は92歳で他界されてます。）

※昭和57年1月 第1回指宿温泉マラソンスタート



2. 「おもてなし日本一のマラソン」を掲げた理由

・そのタイトルを付けたマラソンが無かったから・・・。

「おもてなし日本一のマラソン」にするために

・ランナーと市民に喜びと感動を与えるには。
・ 真心の声援・感謝の応援

・市民から愛されるマラソンにするために。
・ 市民マラソンに徹する。
・ 有名選手の招待にこだわらない。(懸賞金なし)

・指宿らしい暖かなイベントにするために。
・ 自分たちで全て手作りできないか。

・1市2町にまたがるイベントでどうしたらおもてなしが？
・ 地域を巻き込んだ協力をもらう為に
・ 自治体の理解・交通規制・ボランティアへの呼びかけ・・・

3. イベントがもたらした効果と市民協力

・指宿の旅館ホテルでは（15軒）

1. 郷土料理開発研究会が発足（9軒の調理長会）
2. 予約会が発足
3. 経営者の会議が定期的に行われるようになった。

・指宿医師会との連携、医師会では救急救命体制。

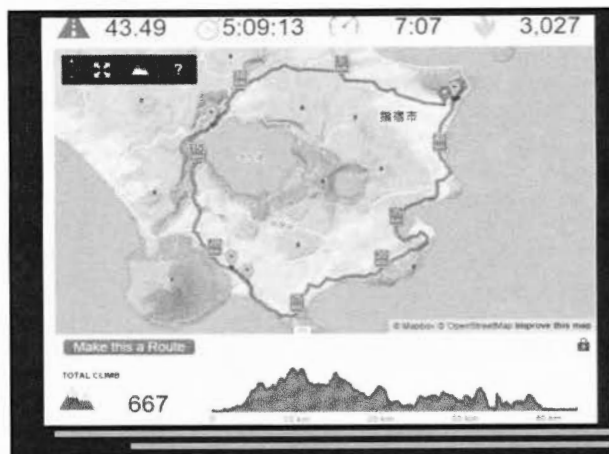
・警察との連携、交通規制と地域の協力体制。

・指宿陸上競技協会との連携

・自治公民館との連携、地域住民の方々の支援。

・婦人部会との協力支援

・学校生徒のボランティア活動（高校生）



※自分たちで出来ること

ホテル・旅館によるボランティア

- ・ホテルスタッフによるフラッグ立て作業（コース3,000本）
- ・マラソン受付業務
- ・会場へホテルのバスで送迎
- ・宿泊料金が違う料理の統一メニューの作成
- ・マッサージ組合への協力
- ・来賓関係者の対応

市役所職員へボランティアのお願い

- ・大会記録・運営・式典全般
- ・芋炊き・漬物作り（ランナー提供）
- ・救護

※出来ないこと

・医師会・陸上競会・自治公民館・婦人会 etc..

※ 市民の声援と協力

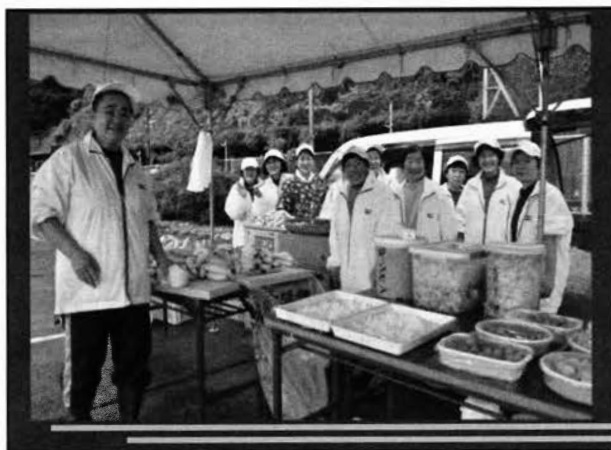
- ・コース沿線に800万本の菜の花植栽
- ・大会当日でも1,200名のボランティア（延べ2,000名以上）

- ・蒸かし芋 8 トン（市役所職員100名 朝5時から）
- ・漬物（大根）1.5トン

- ・茶ぶし（山川水産加工組合）
- ・やそら豆スープ（JAいぶすき）
- ・知寛茶（南九州市）

□コース上では「地元の人々」のふるまい

- ・豚汁・みかん・トマト・金柑漬け・マンゴージュース・ぜんざい
- ・梅・バナナ・鯉の腹皮・餅・飴など





	大会	参加人員	大会	参加人員	
昭和37年	第1回	306	平成14	第21回	12,866
58年	2回	473	15	22回	13,204
59	3回	841	16	23回	13,292
60	4回	1,474	17	24回	13,587
61	5回	2,937	18	25回	14,315
62	6回	5,244	19	26回	14,653
63	7回	6,307	20	27回	15,846
64	8回	7,319	21	28回	18,149
平成2年	9回	7,345	22	29回	20,473
3年	10回	9,184	23	30回	21,409
4	11回	11,185	24	31回	18,334
5	12回	12,454	25	32回	18,743
6	13回	11,141	26	33回	19,550
7	14回	12,552	27	34回	19,364
8	15回	13,117	28	35回	17,522
9	16回	12,809	29	36回	15,178
10	17回	14,003	平成30	37回	13,234
11	18回	13,171	38回	?	
12	19回	13,494			
13	20回	12,338			

西：「おもてなし日本一のマラソン」を目指して

	平成20年	平成30年
参加料	27回大会 4,000円	37回大会 6,000円
参加者数	12,866人	13,234人
収入		
参加料	4,683万円	7,952万円
振興市民団金	720万円	698万円
観光協会負担金	280万円	280万円
協賛金（放送、広告、TBS他）	540万円	540万円
支出		
参加者へのうどん・おにぎり	937万円	1,103万円
参加者賞・Tシャツ・タオル	1,086万円	2,225万円
参加料（システム・新聞、テレビ）	1,020万円	1,197万円
会場設営・撤収費	379万円	397万円

マラソン大会の経済効果

	参加者数	参加料	経費	経済効果
・熊本城マラソン	11,698人	10,000円	2.7億円	6.0億円
・鹿児島マラソン	11,854人	10,000円	3.5億円	14.3億円
・いぶすきマラソン	13,234人	6,000円	0.9億円	10.2億円
・東京マラソン	36,000人	10,000円	19.0億円	240億円
・京都マラソン	14,000人	12,000円	6.6億円	40億円
・神戸マラソン	20,000人	10,000円	6.5億円	59億円

4.「救護センター」の新設と危機管理体制

第32回大会（平成25年）の教訓

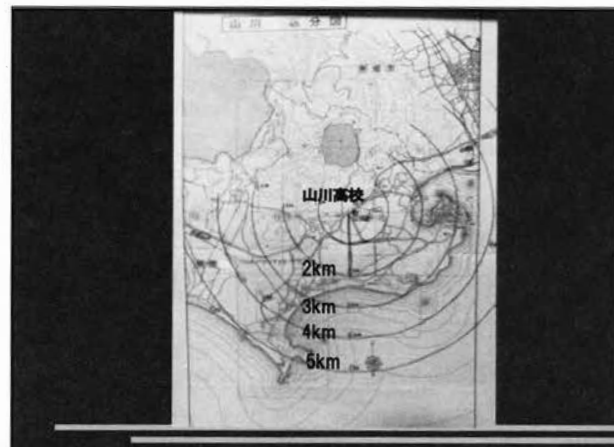
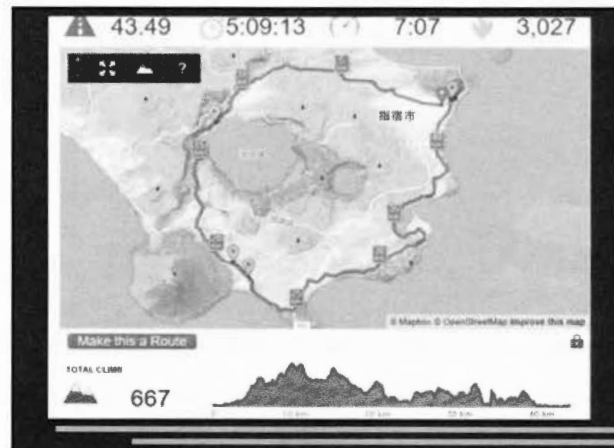
・朝からの悪天候（低温の雨）により、ランニングが走行できないリタイア者や救急車による搬送者が続出。

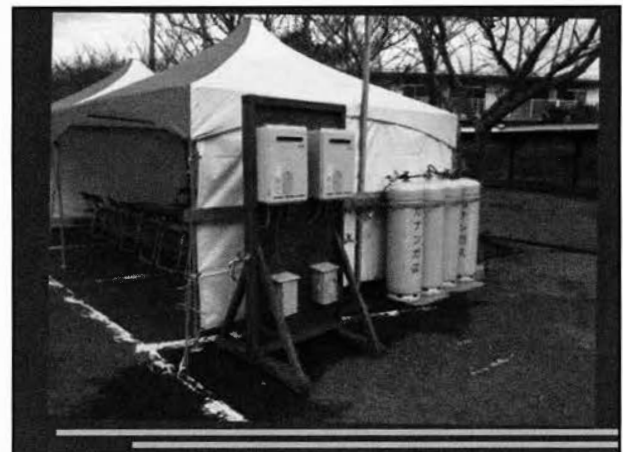
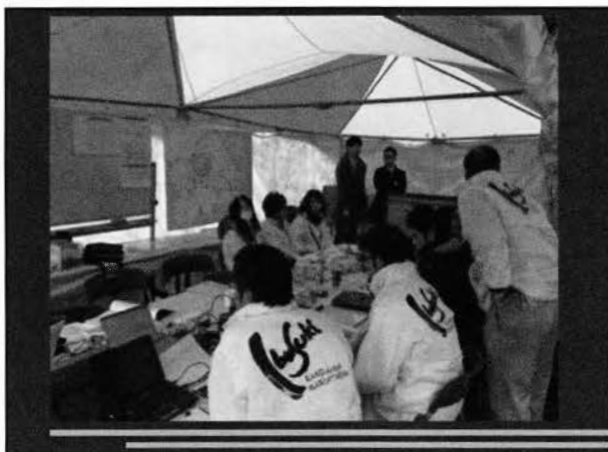
・18,573名がスタートし14,203名がゴールした大会。

・救護・救急体制が全く機能せず、対応できなかった。

・抜本的な危機管理体制の見直しを図る。

・絶対に事故者を出さない覚悟。





西:「おもてなし日本一のマラソン」を目指して

ご清聴ありがとうございました。



マラソン大会の経済効果

	参加者数	参加料	経費	経済効果
熊本城マラソン	11,698人	10,000円	2.7億円	6.0億円
鹿児島マラソン	11,854人	10,000円	3.5億円	14.3億円
いぶすきマラソン	13,234人	6,000円	0.9億円	10.2億円
東京マラソン	36,000人	10,000円	19.0億円	240億円
京都マラソン	14,000人	12,000円	6.6億円	40億円
神戸マラソン	20,000人	10,000円	6.5億円	59億円